

よろこびの泉

わたし(イエス・キリスト)が与える水を飲む者はだれでも、決して渴くことはありません。わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠のいのちへの水がわき出します。
(ヨハネ 4:14)



▲春の日差し

愛

- 愛はすべての罪を被う(第一ペテロ4:8)
- 愛はすべての憎しみを被う
- 愛はすべての失敗を被う
- 愛はすべての疑いを被う
- 愛はすべての敵意を被う
- 愛はすべての不安を被う
- 愛はすべての忘恩を被う
- 愛はすべての絶望を被う

河野 進

河野 進詩集「カナの婚宴の葡萄酒」より

発行所 〒630-0266 奈良県生駒市門前町七-四〇 日本ミッシェン
電話〇七四三(七三)一七五四 振替口座〇九三〇二六四三番

発行人 フアベイ・D
編集人 日本ミッシェン編集部

印刷所 〒350-0303 埼玉県比企郡鳩山町熊井一七〇
新生宣教団印刷部
電話〇四九(二九六)〇七二七

一年分 送料共 八〇〇円
定価 一部 一五円



質問室 問、僕は今スマホにはまっています。というよりスマホに つながれている感じがです。つまらないと思いつつ、一日の半分以上 何人もの友達とメールのやりとりをする自分に嫌気がさして、今年こそ抜け出したいと思いつつ、又ずるずるとメールに引きずられてきました。この習慣に勝ちたいです。

答 通信機器は日進月歩。子どもから高齢者まで、スマホが携帯電話を持っていて、歩きながら、電車の中で、自転車に乗りながら画面を凝視し、タッチしている姿を見かけます。メールは安く早く送信できるので頻繁且つ必要以上に使ってしまうですね。届いたメールにはすぐ返事をしないと友情が壊れると思いつつ、スマホにいつも心が奪われるスマホ中毒になる人も増えていくそうです。

どこにいても相手と通じる便利な道具ですから、持っているだけで安心のほすが、逆に「今何をしよう?どこにいる?」と、いつも確かめ合っていないと不安な気持ちになってしまふのです。一日の大半をスマホに縛られることで、貴重な青春期の時間をどれほど無駄にしていることでしょうか。

親と子のしあわせ

378



次女(小六)のことで数ヶ月間お祈りしていることがありました。次女には、幼稚園の頃からずっと仲良しのNちゃんという友だちがいます。家も近所がよく遊び、けんかもしましたが、すぐ仲直りもしました。しかし数ヶ月前にけんかをしてから口もききません。「どうしたの?」と聞くと、娘は「知らない。Nちゃんが悪い。私は悪くない」と言います。「そう。悪くないんだ。さみしくない?」と尋ねると、「ほかの友だちがいるから」と言う返事。「けんかしたまままで過(す)すのは楽しくないよ。

めて数年が経ってある日、外に出ようとして自分の体が大きくなくなって穴から出られなくなっていることに気付く。その狼狽と悲しき。彼は恋をすることも出来ず、広い世界に飛躍することも出来ず、一生岩の穴の牢獄生活を送ったというお話です。

状況に甘んじ、今の生き方を変えようとする決断を先延ばしにしている内に、人生のイエス様を信じている光の子なんだから、お祈りしよう。」お祈りしてもふたりの関係はなかなか回復しませんでした。Nちゃんのお母さんは、「そのうち仲直りしますよ」と温かく見守ってくださいました。学校の先生は「これによって新しい友だちと関わることでできるから良いことです」との見方。そのうち少しは話すようになつたものの以前のように話さなくなり、祈りつつ成り行きを見守っていました。

飛躍のチャンスを失ってしまっています。目先の楽しさに浸っている安易な道ではなく、自分の殻を破ろうとする志向性、未知な世界を切り開く情熱を持って、今年こそ決意を新たに立ち上がって下さい。友達との小さなつながりを大切に現況に甘んじることより、天地方物の神があなたに呼びかけておられる、スケールの大いなる人生の計画に賭けてください。

希望の光 — 解決への道 —

滋賀県彦根市 宇野 繁 博

高校時代の英語の先生にアコがれて、子供が大好きな私は小学校の教員になりました。しかし、わずか6年でその職を辞さなければならなくなったのです。難病(網膜色素変性症)により視覚障害者になったのです。



▲妻と共に、イスラエルの荒野にて

視覚障害に

私は一九六四年二月に福井県で生まれ、二五歳の時、難病(網膜色素変性症)により、視覚障害の身となりました。当時小学校の教員をしていた私は、退職を前提とした休職となり、3年後、余儀なく退職しました。

高校時代にすばらしい英語の先生と出会い、私も先生のようになりたいと夢を持ち、地元の小学校に就職しました。そして、将来は中学校で英語を教え、大好きな野球の指導もしたいと色々な夢がありました。わずか6年でその職を辞することとなったのです。私は、幼い子供達の純粹さがとても好きでした。そのような子供達と別れなければならなくなり、また当時結婚を考えていた女性とも別れることになりました。彼女も小学校の教員で、一緒に教材研究をしたり、スポーツを楽しんだり親しくなり、お互い結婚を意識するようになりました。しかし、私が視覚障害の身となり、将来の見通しが全く立たない中でその関係はもろくも崩れていったのです。約3年間の交際でした。

消えてしまいたい

仕事ができなくなり、車の運転は勿論のこと、新聞さえも読めない状況の中、親戚のある人から、障害者がいると、息子の縁談にも影響するかもしれないという内容の話をお聞きした時、私は人生に絶望し、生きていく力が完全になくなりました。自殺をする勇氣はありませんでしたが、できることならば、ナメタジのように自分自身を塩をかけて消えてしまいたいと思いました。人前で涙を流すことはありませんでしたが、夜になり布団にはいると自然と涙がこぼれました。これほどの涙がどこにあるのだろうかと思うほど、毎晩、涙はとめどもなく流れました。

かあちゃんと一緒に死のう

ね。」私はこの言葉を聞いた時、体が震えました。母はまだ四八歳でした。目が見えなくなり、何もできなくなった私のような者に対して、母は自身の命を捨ててもかまわないとまで言ってくれたのです。母は私の気持ちをよく理解してくれていました。私以上に

新年おめでとうのプレゼントも。

母の方がつらかったかもしれませんが、私にとって母の言葉は、大きな励ましとなり、母の気持ちに伝えるため、母のため、そして、自分自身のためにも精一杯生きていこうと決心しました。

二五歳の春、はり灸マッサージの資格を取得するために、盲学校へ入学。その後盲学校の教員資格を取得したのです。一方、母は、私のために1円でも多くのお金を残してやりたいと、無理をして働くようになりました。母はいつも「親として、お前にしてやれることは、お金を残してやることしかできないんだよ。繁博のことを考えると、夜も眠れない。だからこうして働いて、体をくたくたにしないでと眠ることができないんだよ」と言いました。そのような大きな身体的、精神的ストレスを抱えて生活をする内、癌が発症。母は五五歳で亡くなりました。私が三二歳の時です。私の将来をとても心配しながらの母の死でした。

自己中心こそ罪

私は三〇歳の時、再就職の道が開け盲学校の教員になり

ましたが、三五歳の時、家族の人間関係の問題で悩み教会へ行くようになりました。牧師先生が私の悩みを聞いてくださり、人間の罪についてわかりやすく教えてくださりました。「人間関係で悩んでいる宇野さんは、自分を中心に物事を考えています。それがキリスト教で言う罪というものです。極端な言い方をすれば犯罪なども自己中心の結果です。これからは、自分を中心に生きるのではなく、神様を中心として生きることが宇野さんの人生に大きな祝福をもたらします。聖書を読んでみてください。今の宇野さんの問題にも必ず解決の道が与えられますよ。」

視力を失ったあと、すぐに教会へ連れて行ってもらった時は、神を信じることはできませんでしたが、この時は先生の言葉がストリートに心に入ってきて、イエス様を信じたいという気持ちになりました。聖書を読むようになり、また、キリスト教伝道のテレビ番組「ライフライン」を通して紹介された、インマヌエル彦根キリスト教会に集うようになり、

二〇〇五年二月一日に洗礼を受けました。

神の御業を楽しみに

北陸のある盲学校のクリスチャンのH先生と、電話で話をした時のことです。「宇野君は、ヨハネの福音書の9章を読んだことがありますか。」「いえ、まだ読んだことがありません。どのようなことが書いてあるかを簡単に教えてください。」「あ、ね、イエス・キリスト様が道の途中で生まれつきの盲人を御覧になったのです。そして、弟子達が尋ねました。どうしてこの人は生まれつき目が見えないのですか。本人が罪を犯したからですか。それとも、両親が罪を犯したからですか。この弟子の質問に対して、イ

エス・キリスト様は、次のようにお答えになりました。「この人が罪を犯したのでもなく、両親でもありません。神のわざがこの人に現れるためです。」(ヨハネ9・3) 宇野君のこれからの人生にも神様の御業が現されるからね。希望を持ってイエス様を信じて、楽しみにしているといいよ。」

4年前にあるクリスチャン女性と知り合い結婚しました。毎週日曜日、夫婦そろって教会の礼拝に出席できることは私にとって大きな喜びであり、神様からの恵みです。家庭の中心は常にイエス様で、それ故、私の家庭は平和です。「一切れの乾いたパンがあつて、平和であるのは、ごちそうと争いに満ちた家にまさる。」(箴言17・1)



「神は、種類にしたがって野の獣を、……造られた。」創世記1:25